

2020年9月4日

工学部・工学研究科の後期の授業実施形態についての方針

工学部長・工学研究科長 大嶋正裕

先日、京都大学としての方針および国際高等教育院（全学共通科目）の方針が公表されましたが、8月17日付けで暫定的にお知らせいたしました工学部・工学研究科の実施方針の内容に変更はありません。今後、変更が生じた場合は、工学部・工学研究科の全構成員に速やかに周知します。

なお、本方針は工学部・工学研究科の実施する科目に対するものであり、国際高等教育院の実施する科目については、対応が異なる場合がありますので、注意してください。

【後期の授業実施形態の基本方針】

後期の授業実施形態について、新型コロナウイルス感染症の感染状況ならびに前期のオンライン授業の実績、さらには学生の授業アンケート結果などを踏まえ、工学研究科の執行部ならびに各学科の学科長を中心に色々と議論いたしました。その議論を踏まえ、**後期開始の時点で対面での授業が一定程度でも実施できる状況であれば**、以下のような方針で授業を実施します。

- (1) 実験・実習・演習科目や課題研究などの対面での実施が望ましい科目は、3密を防ぐ形態で実施できる対策を施したうえで、対面あるいはオンラインと対面を併用するハイブリッド型で実施します。
- (2) (1) 以外の授業科目は（たとえ少人数であっても）原則としてすべてオンラインで行います。ただし、状況によっては、対面とオンラインを併用する形態に移ることもあります。変更する場合は、遅くとも**42※**週間前には通知します。**※10/16更新**
- (3) 具体的にどの科目が、オンライン、対面あるいはハイブリッド型で行われるかについては、授業開始までに担当教員からクラスを通して学生に連絡しますので、履修予定の科目は時間割作成期間（9/23～）に選択しておいてください。（なお、学部1回生配当の全学共通科目のうち、基礎化学実験・物理学実験については、対面あるいは対面とオンラインを併用する形態で実施するよう、国際高等教育院と調整しています。）
- (4) 遠方からの通学や対面授業の前後にオンライン授業がある場合などで、学内でオンライン授業の視聴を希望する学生には、学部生については学科ごとにオンライン授業の視聴場所を用意します。ただし、スペースに限りがありますので、可能な限り自宅や下宿でのオンライン授業の視聴にご協力ください。また、3密を防ぐために、視聴場所を指定しますので、学部生については所属学科事務室窓口で、座席スペースの有無を確認し、視聴場所の指示を受けてもらうことになります。大学院生については、配属先の指導教員と相談のうえ場所を確保してもらってください。
- (5) 授業開始後、感染拡大などにより対面授業の実施が困難な状況になった場合は、後期の途中でも全面的にオンライン授業に切り替えることにします。